



そら豆

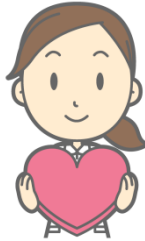
発刊： 済生会今治病院 透析センター
 代表： 透析センター長 大本 昌樹
 患者数： 242 名 (9/15 現在)

そら豆は 空に向かって 豆がなります。また 腎臓の形は そら豆に似ています。皆様の 気持ちも 上を向きますように...

西日本豪雨災害 支援活動を終えて

透析センター 看護師長 盛重

8/13～8/17に、人的支援のため、済生会広島病院で活動をしました。広島病院では復興の最中、人員受け入れのご準備に、随分時間をさかれたのではないかと感じました。また当院患者さまや透析スタッフの皆様には、5日間という日数を不在にするのに、気持ちよく送り出していただき感謝申し上げます。



さて、今回の活動に参加し、一番印象に残っているのは、患者様や広島病院の人たちの、前向きな姿勢でした。現状は、退院が決まっても自宅ではなく避難所に退院する方。車が流され、購入したいけれど注文が殺到し生産が間に合わない方。渋滞で通院も通勤も、お見舞いも、移動に何時間もかけている方々の現状がありました。業務は病棟業務でしたが、もう少し早い時期に支援に伺うことができればよかったと思えました。



私たちは、生きていたからよかったなど、つらい状況でも、復興に向けて前を向いている姿が印象的でした。



先日北海道で震度7という大きな地震が発生し、透析に関するニュースも報道されました。予期せぬ災害に大切な方を亡くされた方。生きた心地もしなかつたかと思えます。この地域でも、いつ起こるかわかりませんが、安全を最優先に行動ができるよう、働きかけるとともに、今回の活動で得たことを少しでも、透析センターで活かすことが出来たらいいなと思います。

普通の毎日が、特別になる

腎友会 会長 上岡哲典

私には昔、心に残る出逢いがあり、その気持ちを、強く刻んできた。それは、突然の透析治療に悩んでいた私を、退職間近の看護師さんが、毎夜、病室にやってくる。悩みを聞き、励ましてくれたことだ。この時、感謝という気持ちが刻まれた。そんな心に残る瞬間が、毎日起こっているなどとは、思いもよらなかった。そう、毎回受ける透析センターで起きているのだ。穿刺する透析スタッフの真剣な表情を見て、私は安堵する。スタッフの「大丈夫？」と目で語りかけてくる、そんな時だ。あの出逢いの時の、感情が甦ってくる。心に残る出逢いは、いつも傍にある。

俳句



土竜 (上岡)



そら豆は 人の命か 青々と



秋蟬の 哀しきまでに 声澄みて



穿刺した 腕に手のいく 今朝の秋



※瀬祭忌とは、正岡子規の命日にあたります
 平成も 遠くへ行くか 瀬祭忌

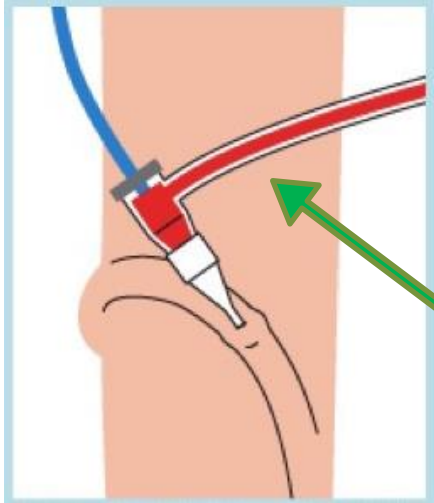
シヤントPTAについて

透析治療では**バスキュラーアクセス**（血液を体外へと引き出し、きれいになった血液を体内へと返すための血管）が必要となります。

バスキュラーアクセスと云うのは、基本的には静脈を使用します。しかし、普通の静脈では、透析で必要となる血流量が得られず、透析不足となつてしまいます。そこで**シヤント**（動脈と静脈を吻合したものを）を作り、これを**バスキュラーアクセス**として使用しています。

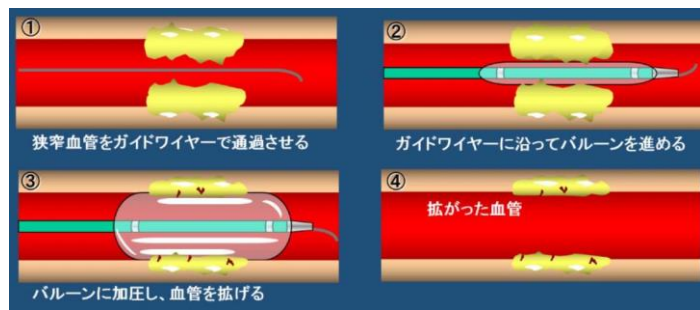
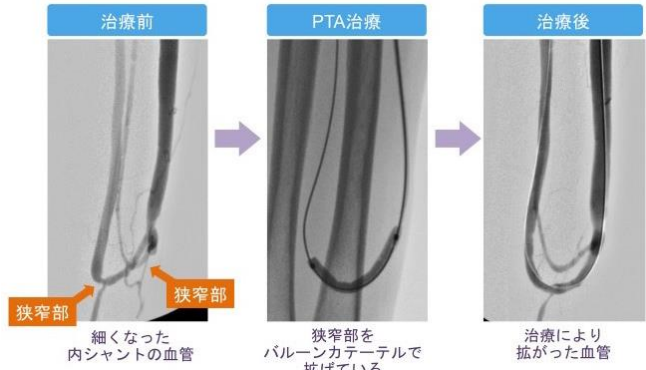
しかしこの**シヤント**に細いところがあると血流量が少なくなり脱血不良となり透析がうまくできなくなります。その時に**シヤントPTA**（経皮的血管形成術）という事を行います。

ではご存知の方もいるかと思いますが、**シヤントPTA**とはどんなことをしているのかと言うと、血管に**シース**と言うものを挿入します。



シースの中にワイヤー（針金のようなもの）を通し、血管内へを進めていき、そのワイヤーにそつて

バルーン（風船のようなもの）を狭窄部位まで進め、その**バルーン**で血管の内側から拡げていく事です。



通常では**シヤントPTA**を行う際は、狭窄部位や血管の走行を分かりやすくするために造影剤を使用します。しかし造影剤のアレルギーがある人に対しては、エコーガイドでの**PTA**を行います。

シヤントPTAは再作成を行うより、患者様の負担は軽減されます。ですが短期間に、何度も**シヤントPTA**を繰り返したり、**シヤント**が完全に詰まった状態（**シヤント閉塞**）となると、ワイヤーが通過しにくくなり、通過しない場合は、**PTA**が出来ないので再作成が必要となります。そうならないためにも、

スタッフも患者様と一緒に、**シヤント**管理を行つていけたらと思います。

臨床工学技士 松村

看護研究チームより

看護師 伊藤一郎

夜間透析患者様対象に、アンケート調査を行わせていただきました。無事回収に至り、集計できました事をご報告いたします。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

災害シミュレーション

看護師 伊藤

9/23(日)に臨床工学技士 重谷と看護師 伊藤で、愛媛県災害透析研究会に県内54施設から約100名の参加者と共に研修を受けました。災害時、情報伝達訓練として被災状況を愛媛県本部へ入力するシステムの説明があり、今治地区↓東予ブロック↓愛媛県本部へと被災状況・透析状況・移送者の把握や引き受け可能人数など、情報伝達の仕方・連携について、シミュレーションを行いました。また、今治地域グループとして各施設での情報交換を行い、交流する事ができました。今回学んだ事をスタッフ間で共有し、当院の災害対策を充実させていきたいと考えています。

10/28(日)午前中、今年度も患者様・ご家族を交えた災害シミュレーションを計画しています。改めて出欠の用紙を配布しますのでこの機会にぜひ、ご参加くださいますよう、お待ちしております。宜しくお願ひします。